

文化活動・交流の拠点

ふれあい倉庫「赤れんが6号」

## ■ ふれあい倉庫情報

### 【カルチャーホール】

北海道医療大学ゴスペル・弦楽・吹奏楽部合同  
「ペルげんそうコンサート」

▼日時 5月23日(土) 14時00分 開場

▼入場 無料

▼主催・問合せ

北海道医療大学ゴスペル・弦楽・吹奏楽部  
原田 (☎ 090 - 7658 - 4831)

### 【多目的ホール】

菊花作り講習会(初心者向け)

▼日時 6月6日(土) 13時

▼入場 無料(入会される場合は年会費2,000円)

▼内容

さし芽から各種の大菊・小菊の作り方をお話します。

▼主催・問合せ

当別菊花同好会 清野 (☎ 22 - 3452)

## ◆ お知らせ ◆

5月14日(木)午前10時より当別町商工会がプレミアム商品券の販売を行います。(関連16P)

当日は大変混雑することが予想され、駐車場が満車になる可能性があります。路上駐車は禁止されておりますので、付近に迷惑のかからないようお願いいたします。

## ◆ ふれあい倉庫の使用について ◆

### ▼受け付け・使用料の支払いについて

4月から貸館の受け付け・使用料の支払いをふれあいホール運営協議会に委託しています。使用の申込みは使用予定日の3日前まで、使用料の支払いは使用日までにお支払い願います。

## ◆ レジ袋削減に取り組みます ◆

ふれあいホール運営協議会では、環境への配慮や経費削減を目的として、マイバッグ等の持参の呼びかけを行うとともに、レジ袋の一部有料化を検討しています。

レジ袋の有料化は、6月からを予定していますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

▼問合せ ふれあい倉庫 (☎ 27 - 6600)  
商工課 (☎ 23 - 3129)

続

## 町長の日記

平成21年4月19日(日)

昨日、ふれあい倉庫で「北方圏の気候変動と食糧生産」をテーマにした講演会が催された。

タイトルが堅苦しく、講師もスウェーデンから来られた博士や日本でもIGBPと言う団体の有名な方々ばかりだったが、お話はとても分かり易くて200人程度の聴衆はみんな真剣に聞き入っていた。

私も、地球上で近い将来「水と食糧」不足が起きると言う話は身近にとっても強烈に感じた。

そして、当別の事を考えて、この町は良く整備された田畑が8,000haもあり、農業用の青山ダムと一般の人には余り知られていない茂平沢野水池、それに目下、建設中の多目的の当別ダムと三つのダムがあるから、将来の雪不足や雨不足にもそなえられるだろうと思う。なんと言っても水は、簡単に輸出したり輸入したり出来るものではないので、当別町の素晴らしい資源だと思う。今、私たちが食べている食品の60%以上は外国で膨大な量の水を消費して育てている事など、知ってはいても実感はなかったが、実に深刻な問題だと改めて勉強させられた。

当別町では、北海道医療大学の廣重理事長を中心に、約1,800人の町民が関わって「当別町第5次総合計画」書を策定したが、“当別は何もない町”のイメージを払拭するためにも農産品の“ブランドがある町”にしようとして決めて下さった。素晴らしい計画書に私はとても感謝している。

実は当別には、お米の銘柄だけでも5つ、馬鈴薯は17、南瓜は25と豆類から各種野菜まで全ての品種を数えると187品目以上ある。この恵まれた豊富な農産物を使って当別ブランドをつくる事は、とても大切な事だと思う。

当別町は、開拓100年(昭和45年)に、“米50万俵”を生産した大祝賀会を行っている。開拓当初(明治4年)は、一粒の米もとれなかった村が苦節100年、全道の町村で一番最初に50万俵の米を生産する力をつけたのですから当別の先達はもの凄かったと思う。

この町は、あと11年で開拓から150年になる。その時、我々は農業の町として誇れるブランド産品を持っていたいと思う。

当別町長 泉 幸彦

※ IGBP (関連22ページ掲載)